

入力者氏名	教員所属	科目名	アンケートに対するコメント
川村幸夫	基礎教養	英語Ⅰ（表現）月4（10074）	アンケート回収率が低かったのが残念でした。慣れないリモート学習だったので、戸惑いがあったと思います。エドクラテスでの非同期リモートでしたので、対面の臨場感がなかったと思います。全体的に全学平均を下回っていますので、今後のた糧にしたいと思います。ネット環境により、課題開示が遅れたことやメール返信が遅れたことは反省の余地あります。
川村幸夫	基礎教養	英語Ⅲ 月5（10898）	アンケートの結果は、全学平均よりやや下回っていました。エドクラテスの遠隔非同期でも授業でしたので、対面授業の臨場感はなかったと思います。今後は工夫を凝らしたいと思います。「自習と変わらない」との意見がありましたが、自主的学習を促す授業設計がそのように映ったのかも知れません。この点についても、授業設計の改良を行っていききたいと思います。
福田有美	基礎教養	英語Ⅰ〔表現〕	初めてのオンライン授業で、「リラックスして受講するように」「困ったらチャットルームやメールを」と伝えておいたことが、有効だったことがわかりよかったです。
浅岡 章一	人間心理	基礎ゼミナール	コロナ感染症対策の関係で、急にオンラインでの授業になったにも関わらず、全般的に高い評価を頂き有難うございました。そのような中で、家庭学習（予習・復習）の時間に関する得点は低くなっていました。各回の課題を明確にするとともに、自主的に学習に取り組める工夫を今後はしていきたいと思っています。
浅岡 章一	人間心理	神経・生理心理学	成績の評価基準の理解については、他と比べて3.8と得点が低くなっていました。オンライン授業になった関係で成績評価方法の変更があり、その事は初回授業時に説明するとともに資料として配布したかと思いますが、説明が足りなかったのかなと考えております。一年生の前期に取る事が多い科目ですので、次年度以降は成績評価方法の理解の程度を確認する課題を取り入れるなど、工夫を考えていきたいと思っています。
福田 一彦	人間心理	基礎ゼミナール	全学平均よりも評価が低かったものについてコメントします。問1「この科目を履修する時にシラバスをよく読んだ」は明らかに低い値ですが、これは必修科目だから仕方ないかもしれません。また、問7「成績の評価基準を理解している」ですが、シラバスを読んでいないという事は評価基準も分からないのは仕方ありませんね。問13「番所や機器を使った表示文字は見やすかった」ですが、これは、使っている教室に古いテレビしかないのを見にくかったことによるのではないかと思います。大学側に何とかしてほしいです。問14「専門知識や専門用語の説明は分かりやすかった」の評価が低いということは分かりにくかったのだと思います。私の説明にも問題はあるのかもしれませんが、1年生前期で専門用語はやはり難しく感じたのではないかと思います。
福田 一彦	人間心理	睡眠の心理学Ⅰ	全学平均よりも評価が低かったものについてコメントします。問1「この科目を履修する時にシラバスをよく読んだ」は、う～ん、必修ではないので、読んでほしいですね。でも、学科の学生のうちかなりの学生がとるので、あまり内容を吟味せずに、科目名が面白そうというくらいでとる学生も多いと思います。この科目は他学科の学生の履修も比較的多いです。問17「学生の私語を注意するなど、スムーズな授業の運営に努めていた」は低い値ですが、そもそも、オンデマンド形式の授業で、学生さんは自宅等で履修していますので、学生の私語は有り得ませんし、録画された福田も注意できませんし、これは、低評価というよりも「該当せず」という事であると思います。授業評価の回答項目に「該当せず」という選択肢も入れるべきではないでしょうか。総合評価の全学平均が4.3のところ、4.5をつけてもらいました。全般的に高い評価をいただきました。ありがとうございます。自由記述欄にオンライン授業のおかげで睡眠時間を長く確保できたので最高だった、という記述がありました。どなたの回答か分かりませんが、笑いました。
福田 一彦	人間心理	外国書講読	全学平均よりも評価が低かったものについてコメントします。問19「この授業において、授業時間を含めた一週間の平均学修時間について」これが全学平均よりも低かったのは困ったことですね。この授業はかなり授業以外の時間も頑張ってもらわないと成果が出ない授業だと思います。しかし、この項目以外は比較的高い評価をしてくれていて、総合評価の全学平均が4.3のところ、この科目では4.5をつけていただきました。ありがとうございます。自由記述欄で1名の方が記入してくださっていたので、それを紹介します。「紹介する英語論文の内容にそった科学的知見の解説等をしていただき、英語に関する知識だけでなく、心理学的な知識も得ることができました。また、オンラインでの授業に際して、様々な機器を用いて説明していただき、非常に分かりやすかったです。」

山本隆一郎	人間心理	基礎ゼミナール	<p>本授業は1年生対象のゼミナールである。毎年度この授業評価に関しては、学生さんの相互作用（クラスの雰囲気によければよい、悪ければ悪い）に評価が依存している科目である。今年度はCOVID-19流行下でオンラインによる授業であり、1年生最初の科目であったことからなかなか相互作用が生まれにくい中で行った授業であった。自己紹介なども相手が見えない中で行うなど、当初は基礎ゼミの学生も大変であったと思う。担当教員としても、全てのゼミ生にとって心理的な負荷が低いような授業運営かつ大学生活での困りごとを共有できるような関わりのあり方を模索して工夫をしたつもりである。その結果、総合的な評価として4.7点であり、高い評価を頂いたと考えている。ただ、この評価は、私自身の授業運営ではなく、未曾有の状況下の中で、学びの気持ちを絶やさず、主体的に参加してくれた一人一人が授業を満足度の高いものにしてくれたと考えている。今後も大変な状況下が続くと思うが、身を引き締めていきたいと考える。</p>
山本隆一郎	人間心理	健康・医療心理学／健康カウンセリ	<p>この科目は、公認心理師科目であり、3年次配当の選択科目である。COVID-19流行下での授業であったが、完全オンデマンドとして授業を実施した。学生との双方向性の確保として、毎回の授業終了後課題で質問を収集して、そのQ&Aを作成するなど、学生からも簡易でかつ他の学生の質問を知ることができるなど、オンデマンドであることを活かした授業運営を行った。このことは、自由記述において「GoogleフォームでのQ&Aがよかった」ということ感想などにも表現されていた。また、このQ&Aについても半期間で146のやり取りになるなど、学生さんにも活用していただけたと考えている。学生さんは、このような状況下において、新しい授業形態にも関わらず熱心に取り組んでいたと思う。今後も状況に合わせた最適な方法を模索していきたいと考えている。学生さんの全体的な評価としては、概ね昨年までと同様に高評価（4.6）であり、自由記述でも、授業資料や伝え方の分かりやすさに関する好評を頂いた。また、今年度は昨年度の統制もあってか、一部の騒がしい学生の受講は授業当初からなく、円滑な授業運営ができた。授業内容も比較的学生が興味を持ちやすいテーマ（飲酒や喫煙など3年生になった学生に身近なもの）であったことから、主体的に参加しやすかったのではないかと考える。昨年同様のコメントではあるが、この授業で学んだ健康行動やそのサポートの仕方に納得ができたのであれば、まずは自分や身近な人々に応用できて初めてこの授業の意味がある。面白いテーマだったということだけではなく、主体的に学んだ学問を過去のものとしてせず、現在そして今後の生活に生かしてほしいと考える。</p>
高野 直樹	経営社会	経営学概論(経営学総論Ⅰ)	<p>「経営学概論」は主に経営社会学科の1年生を対象にした、経営戦略、マーケティング、人材と組織、財務・会計などの経営学の基礎を概観する入門科目です。2020年前期に開講され、履修学生数は132名でした。授業はすべてオンラインかつオンデマンドで行われ、定期試験をなくした代わりに、レポート課題等を課しました。アンケートの設問9-18の平均値は4.0でした。そのうち評価が高い項目は「授業を通して多くの知識を得ることができた」「授業開始・終了の時間は守られていた」、評価が低い項目は「学生の私語を注意するなどスムーズな授業の運営に努めていた」「教員の授業に対する熱意を感じた」でした。自由コメントには「初めて知ることが多かったがわかりやすい説明だった」「初めて学ぶことが多かったが先生がわかりやすく教えてくださった」「授業の内容が現実的だったので理解しやすかった」などの、わかりやすさに関する評価が目立ちました。一方で、「課題が出て大変だった」「レポート課題が多すぎて疲れます」という課題に対する不満のコメントも散見されました。本講義を初めて引き受けるにあたり、高校の「現代社会」と「政治経済」の教科書を読んだところ、企業の経営に関する記述はほぼゼロであることがわかりました。そうすると、履修学生にとって「経営学概論」の内容は初めて聞く内容になります。そのため、毎回スライドと動画を作成して、なるべく易しく解説するとともに、集中戦略やフリーミアムといった専門用語には詳しい解説を加えるようにしました。また、楽天のプラットフォーム戦略など現実の企業で応用されている経営学の理論を多く取り上げて、興味・関心がわくように工夫しました。そういったことから、「わかりやすい」というコメントにつながったと思います。オンラインかつオンデマンドの授業だったので「授業開始・終了の時間は守られていた」と「学生の私語を注意するなどスムーズな授業の運営に努めていた」は実際には教員は何もしていません。また、動画には教員の顔が映っていなかったため、「教員の授業に対する熱意を感じた」とかという質問には答えにくかったと思います。定期試験の代わりにレポート課題等を課したため、課題が多いというコメントにつながったのでしょうか。</p>

高野 直樹	経営社会	戦略的経営論Ⅰ	<p>「戦略的経営論Ⅰ」は主に経営社会学科の2年生を対象にした、経営戦略の理論を学修する科目です。具体的には、事業の経済性、強みの構築と活用、過程と学習、環境分析等を解説しました。2020年前期に開講され、履修学生数は93名、うち授業アンケートに回答したのは49名でした。授業はすべてオンラインかつオンデマンドで行われ、定期試験をなくした代わりに、レポート課題等を課しました。アンケートの設問9-18の平均値は3.9でした。そのうち評価が高い項目は「授業の内容はわかりやすいものだった」「授業を通して多くの知識を得ることができた」、評価が低い項目は「学生の私語を注意するなどスムーズな授業の運営に努めていた」「話し方は明確だった」でしたが、実はどの設問に対する評価も0.1ポイントを超える差がなく、ほぼすべて同じ評価点でした。自由コメントには「前期の間ありがとうございました」というコメントがある一方で、「課題が多すぎる」「一方的にしゃべられているので授業としての質が悪い」という不満のコメントがありました。強いネガティブなコメントを書いた学生は3名のみで、3名全員が設問9-14の評価をすべて「1」としていました。本講義では、毎回スライドと動画を作成して、なるべく易しく解説するとともに、SWOTやナッシュ均衡といった専門用語には詳しい解説を加えるようにしました。また、トヨタ自動車のリーダー戦略のように、現実の企業で応用されている経営学の理論を多く取り上げて、興味・関心がわくように工夫しました。そのため、わかりやすさと、得られる知識の多さに関する評価点が高かったように思います。2019年度に課していた定期試験の代わりに、2020年度はレポート課題等を課したため、課題が多いというコメントにつながったのでしょう。</p>
高野 直樹	経営社会	基礎ゼミナール	<p>「基礎ゼミナール」は経営社会学科の1年生を対象にした必修科目です。テキスト「学生生活スターアップ・ガイド」に沿って、基礎力を高める、人間関係力を養う、働くということ、などのテーマで学ぶうえでの心構えやよりよい人間関係構築のための基礎スキルを身につけます。1年生は必ず「基礎ゼミナール」を履修しなくてはなりません。履修学生が教員を選ぶことはできません。2020年前期に開講され、履修学生数は14名で、授業アンケートに回答したのは14名でした。授業はすべてオンラインかつオンタイム(時間割通り)で行われました。アンケートの設問9-18の平均値は4.5でした。そのうち評価が高い項目は「授業開始・終了の時間は守られていた」「学生の私語を注意するなどスムーズな授業の運営に努めていた」、評価が低い項目は「専門知識や専門用語の説明はわかりやすかった」「授業内容はわかりやすいものだった」でした。ただし最低の評価点でも4.1でした。自由コメントは「大変だったけど一生懸命取り組みました」「他の授業に比べてコミュニケーションをとる機会が多くてよかった」の2つだけでした。グループ・ワークを取り入れて、履修学生同士のコミュニケーションとディスカッションを行ってもらったのが良かったのでしょう。講義の開始時間は電波時計を使って正確に行いました。1秒の狂いもなかったと思います。それは、時間を守ることの意味と重要性を履修学生に理解してもらいたかったからでした。そのため、まず教員が率先して正確な時刻に授業を始めるように努力したからです。次に、例えば、遅刻した、不適切な態度・姿勢を示した、不規則発言をした、などの履修学生にはその場で注意するようにしました。これらが「授業開始・終了の時間は守られていた」「学生の私語を注意するなどスムーズな授業の運営に努めていた」という項目の高い評価につながりました。「専門知識や専門用語の説明はわかりやすかった」「授業内容はわかりやすいものだった」の評価点がそれぞれ4.1と4.2でした。テキストを読めばわかるかなと教員が思っても、履修学生にはそれがわからなかったのかも知れません。そのため、もう少し丁寧な説明が求められているのでしょう。教員の知見と履修学生の知見の間には相当の差があるようです。</p>
井上一郎	マスコミ	マーケティング論1	<p>授業評価はほぼ全学平均と等しい評価となっていますが、初のオンライン講義でありながら「多くの知識を得た」などの得点が高かったこと、アンケートの記述欄では「急なオンラインにもかかわらずスライドを用いた授業はとても分かりやすい」などコメントに安堵しました。また、演習では「千葉県」や「身近な企業」を題材に「演習」も実施しましたが「マーケティング戦略について、実際に自分で行うことで理解が深まった」「マーケティングに欠かせないSWOT分析やSTP戦略を実践的に学べてよかった。」などのコメントがあり安堵しました。一方で、特に5限のグループ演習のプレゼンテーションの際には講義終了後にかかることがあり今後の検討課題としたいと思います。</p>
井上一郎	マスコミ	メディア産業論1	<p>授業評価はほぼ全学平均とほぼ等しい評価となっていますが、初のオンライン講義でありながら「多くの知識を得た」などの得点が高かったことは、様々なメディア産業について学ぶ講義特性からはよかったです。アンケートの記述欄では「様々なメディア産業と歴史を学べて非常に勉強になった」「自分が普段耳にしている単語として知っていても説明してといわれる困るような用語を説明できるようになってうれしかった」などのコメントがあり安堵しました。</p>

井上一郎	マスコミ	広告論1	授業評価はほぼ全学平均と等しい評価となっていますが、初のオンライン講義でありながら「多くの知識を得た」「機器を使った表示」「専門知識、用語」などの得点が比較的高かったことに安堵しました。また、アンケートの記述欄では、演習を通して、「実際にキャッチコピーを考えることによって理解が深まった。」「広告を通してどのように製品の価値を提案するのか」「また価値提案をキャッチフレーズにどのように反映するか学べるが多かった」とのコメントがありオンラインでもグループ演習を実施してよかったです。一方で、特に5限のグループ演習のプレゼンテーションの際には講義終了後にかかることがあり今後の検討課題としたいと思います。
井上一郎	マスコミ	マスコミ総合3	本講義は、演習講義で輪読や学外コンクールへの応募準備など多層的に行われますが、授業評価で「わかりやすさ」「多くの知識を得る」「専門知識、用語の説明」「教員の熱意」の項目で、平均を上回っていましたが、特に、多くの知識を得ることができたという点に安堵しています。一方で、演習であることから、特に、グループワークや学外応募の締め切り前などタイムマネジメントが難しい回もありますが、今後、学生の予習と復習の時間と効率的に連携させるなど時間管理を再検討したいと思います。
林香織	マスコミ	コミュニケーション学概論/メディア	本科目は、2020年度より「コミュニケーション学概論」として開講されていますが、前年「メディアC論I」の受講者も同時受講しているため、昨年度の受講者にとっては、異なる内容が多く、厳しかったかもしれません。また本科目はマスコミ学科の基礎的科目として必修になっています。概ね平均と同じようなデータになっていましたが、「問6予習や復習」については、全学平均2.9なのに対し、本科目は3.8と予習・復習をかなりやって頂いたと感じました。コメントにも「他の授業より厳しかった」「圧倒的に負担」という文言が並んでいましたが、基幹科目における予習復習が、今後の専門科目の基礎をなしていくので、狙い通りだったかなと思います。しかし、その分「問15授業開始・終了時間が守られていた」は、全学平均4.5、本科目は3.8と低くなっていました。この点は、反省しなければならないと思いました。オンラインではなく、オンデマンドを選択しましたが、最適なボリュームを模索している段階なので、率直な意見をくれた方には感謝します。ただ、シラバスを読まずに授業に参加している学生が見受けられるのが気になりました。総じて、そういう学生の評価は低くなっていましたが、きちんとシラバスを読み、何を学習する科目なのかを理解してから受講して頂きたいと思います。
林香織	マスコミ	メディア史/マス・コミュニケーション	本科目は、2020年度より「メディア史」として開講されていますが、前年「マス・コミュニケーション史I」の受講者も同時受講しています。昨年と重複する内容が多く、マスコミ史再履修者にとっては復習の意味合いが強くなったのではないのでしょうか。本科目については、多くの項目で、全学平均を上回っていましたが、通常は低い「問6予習復習」の時間なども長く、成績評価時に多くの学生の地道な努力を感じることができ、私自身にとっても非常にやりがいのある授業だったと思います。ただ、その分「問15授業時間の開始・終了時刻が守られていた」については、全学平均4.5、本科目は4.1とやや低くなってきました。オンデマンドを選択しましたが、最適なボリュームを検討する必要性を感じました。コメントに、「メディアの歴史を知ることができてためになった」というものが多く見られました。マスコミ学科の基礎的な科目なので、これから専門科目の知識を乗せていく土台がきちんと作れていると感じました。一方で、「スライドの文字が多すぎる」という記述も散見されましたが…全部書きとろうとするから多いのであって、聞き取れない部分がないように、わざと多くの文字数で記載しています。その中から、必要・不必要を選択判断するのはご自身です。スライドの丸写し=勉強と考えているなら、学習方法を検討すべきだと思います。
熊田 凡子	こどもコミュ	道徳教育の指導法/道徳教育の研究	オンライン課題方式で行った授業であったため、アンケート結果では13.板書の点、17.学生の私語の注意の点、などの数値が低くなっている。11.「授業は何を目的としているのかが明確な理解できた」、が4.4、18.「教員の授業に対する熱意を感じた」、が4.5と高くなっており、本授業の目的や重要性を学生が受け取り学んでいたと考えられる点は評価できる。また、自由記述では、「道徳教育を学びながら自分自身も勉強になることや考えることができた」、という記述があり、学生の学ぶ意欲を刺激できていたということも評価できる。
熊田 凡子	こどもコミュ	保育原理	アンケート結果では、ほぼ全額平均値と類似しているが、10.「授業を通して多くの知識を得ることができた」、が4.4、18.「教員の授業に対する熱意を感じた」、が4.6と高くなっており、オンラインでの授業手法であったが、映像等を通じて、学生の学びの充実に繋がる刺激あるものだったと考えられる点は評価できると思う。自由記述では、分かりやすい、興味深いなどの記述があり、教材の扱いに工夫して考慮して行った点も学生の学びに結びついていたと考えられる。今後の授業の在り方にも検討していきたい。